

常任委員会報告

本会議において、8議案が常任委員会に付託され、審査されました。その主な内容を紹介します。

総務企画委員会

●一般会計補正予算(第6号)

問 早期退職者は、いつまで申し出ればよいか。退職時期がわかりにくいという点をどう考えるか。

答 退職の日において満50歳以上の者で、20年以上勤続。職員本人の病気、家族の介護の事情で町長が特に認められた者の2点で、10月までに申し出る。

課の能力が落ちないよう人事異動を計画的に考えている。

文教厚生委員会

●一般会計補正予算(第6号)

問 環境保全対策費住宅用高効率給湯器設置費補助金は、どのくらい件の数を見込んでいるのか。補助額に上限がないのか。

答 今回の補正予算で50件分を計上し、当初予算と合

わせて150件分になっている。現在、100件交付決定があり、まだ、問合せがある。なかなか見込みが難しく、今後予算の許す範囲内で補助していきたいと考えている。

●国民健康保険税条例一部改正

問 国民健康保険税を上げることがわかっていて、年度途中で中学生医療費無料化をする意図は。

答 昨年度決算で、特に法人については、企業の業績がさほど落ちなかったため、子ども医療の拡充が可能となった。時期についてはできるだけ早い時期で実施したいというところで提案を出した。

問 国民健康保険被保険者数は町内人口の4分の1である。繰入金限度額は約1億円が限度だと、本会議でも答弁があったが、約1億円が妥当であるという根拠は。

答 制度的にはその他繰り

入れ金は0円が望ましい。しかしながら、国民健康保険会計が財政的に脆弱だということ事実があり、町の判断と近隣の状況を参考にしながら9千万円程度を目安にしてきた。今の状況では繰入金を当面は増やさざるをえない。1億2千万円程度と考えている。財政力の低下と国民健康保険の状況を勘案して、繰入金を増やし、国民健康保険税も若干増をお願いするというところで、全体の住民が納得してもらえると判断している。

●産業建設委員会

問 今回の14橋はどのような位置付けの橋梁あるいは、跨線橋になるのか。

答 国の補助金を活用して、橋長14・5m以上の24橋について、順次点検を行い修繕計画の策定を進めている。14・5m未満の橋梁であつ

ても重要な路線、影響の大きい箇所、その他の町道として、橋長10m以上かつ幅員6m以上の計14橋を選定した。

●下水道事業特別会計補正予算(第1号)

問 どここの何のための修繕費か。

答 上ヶの第1ポンプ場の吐出弁、3号エンジンおよび大足ポンプ場の減圧電磁弁の修繕費である。故障があれば、その影響は重大なものとなるので状態を確認して直ちに対処しているのが現状である。



本議会において2件の意見書が提出、可決されました。可決した意見書は、関係先に送付しました。その主な内容は次のとおりです。

○脳脊髄液減少症の診断・治療の確立を求める意見書

脳脊髄液減少症の治療に有効であるブラッドパッチ療法については、いまだ保険適用されず、高額な医療費負担に、患者及びその家族は、依然として厳しい環境におかれている。脳脊髄液減少症の診断及び治療の確立を早期に実現するため、本年度中に脳脊髄液減少症の診断基準を定めること、ブラッドパッチ療法を脳脊髄液減少症の治療法として確立し、早期に保険適用とすることなどを求める。

○TPPへの不参加を求める意見書

政府は、11月9日に「包括的経済連携に関する基本方針」を閣議決定し、この中でTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)についての参加・不参加を先送りしたものの、「関係国との協議を開始する」と判断している。TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)は、関税撤廃の例外措置を認めない完全な貿易自由化を指した交渉である。

国民の圧倒的多数が望む食料自給率の向上は到底不可能であり、農林水産省の試算でも先進国中最低の40%から、さらに14%へと激減することになる。食品関連の輸送など広範な業種で雇用が失われ、地域経済も大打撃を被るものとなることは明らかである。

よって政府におかれては、TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)交渉へ参加しないよう要請する。

「国保税引き上げに反対し、引下げを求める請願」が提出されましたが、本会議で採決の結果、賛成少数で不採択となりました。



「国保税引き上げに反対し、引下げを求める請願」が提出されましたが、本会議で採決の結果、賛成少数で不採択となりました。

その後どなった？

そういえばあの答弁
どうなったのかな

問 生活様式の多様化が進み、月2回の決められた時間に地域の分別収集を利用できない人のために、資源回収拠点の常設を求める。

その後

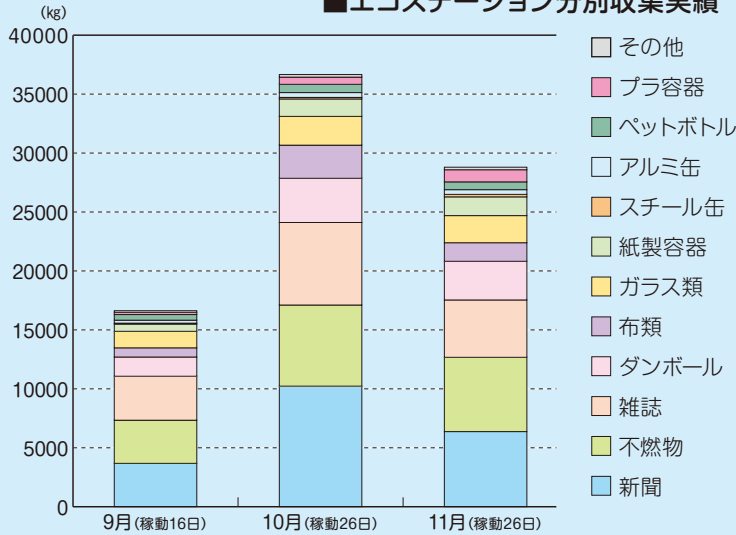
住民の更なる分別意識の高揚と徹底を図り、ごみの減量、発生抑制に努めようと、平成22年9月13日に、「たけとよ資源回収エコステーション」が、武豊町ララゲ22-3（武豊高校前に開設された。

月曜日から土曜日、午前9時から午後1時の間、ペットボトルやアルミ缶、新聞・雑誌やガラス類など、16種類の資源回収が開始され、地域分別収集を利用できない多くの方に利用されています。



■エコステーション

■エコステーション分別収集実績



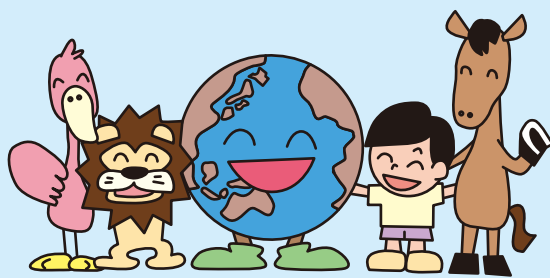
問 環境の町「武豊」のイメージアップと、産業観光の目玉として期待され、これまで議員からの質問やその答弁で話題となった。

その後

現在、建設中の中部電力大規模太陽光発電所の工事進捗状況について

中部電力では、地球環境問題への最重要課題のひとつとして、再生可能エネルギー発電(※)の開発や普及支援を積極的に推進することを目指し、武豊火力発電所南側に14万平方メートルの大規模太陽光発電所を建設しています。正式名「メガソーラーたけとよ」は、平成21年9月に着工し、平成22年8月より太陽光パネル設置が開始され、現在、約2万5千枚(64%)のパネルが貼られ、平成23年10月の運転開始に向け順調に進んでおります。

「メガソーラーたけとよ」は、パネル数39000枚、発電規模7・5MWの中部地区最大級の太陽光発電所で、想定年間発電量約730万kWh(一般家庭の約2000世帯分の年間使用量)、年間CO₂削減



量は、約3000tとなり、完成後には、見学者に対し、太陽光発電について説明するPR室や、施設が一望できる展望台も計画され、環境の町「武豊」のイメージアップと産業観光に貢献し、持続的発展可能な地域づくりに貢献することを目指しています。

※再生可能エネルギー…太陽光や風力、バイオマス、水力など枯渇することのないエネルギー

■「メガソーラーたけとよ」平成22年12月の工事状況(工事現場南端より撮影)

